

# 丹後ちりめん



## “丹後ちりめん”、“丹後織物”とは？



丹後ちりめんとは、京都府北部の丹後地域で緯糸に強撚糸を使用して織られ、精練加工を経ることで生地表面にシボと呼ばれる凹凸が生まれる、後染め織物の総称です。厳しい検査を経た製品にブランドマークを押印し、高品質な「丹後ちりめん」として保証しています。



## 丹後織物工業組合の取組紹介

### 【高い精練技術を有する加工場】

丹後織物産地は、全国の和装用白生地の生産量の6割強を占めている地域です。

その中で、丹後織物工業組合の加工場は、精練加工に加え、風合いを高める加工や高機能化加工など各種先進技術を導入するなど、国内最大規模かつ最高技術を有する精練加工場として日本の絹織物の生産基盤を支えています。



【精練加工】

### 【丹後ちりめんに続くブランド“TANGO OPEN”】

丹後織物は、和装に留まらず洋装やインテリア等活躍の場を拡げています。丹後産地の織物事業者は、高度で多様な織技術を活かして新分野進出の動きを強めていることから、「丹後ちりめん」に次ぐ新たなブランドとして「TANGO OPEN」を立ち上げ、日本のみならず世界市場への進出も視野に取り組んでいます。



TANGO OPEN

TANGO KYOTO JAPAN

### 【絹からの贈り物“セリシン”】

セリシンとは、絹の生糸の中に含まれる蛋白質で、肌を保湿しUVなど外部からの刺激から保護する成分を含んでいます。組合では精練工程から安全に抽出したセリシンを、保湿液、化粧水、石けんなどに加工し、「きぬもよぶ」のブランドで販売しています。



【セリシンを使った化粧品】

代表的な織元企業をご紹介します！



# KUSKA クスカ株式会社

ALL HAND MADE IN TANGO, JAPAN DAL 1936



## 企業概要

「昔の織り技法で今のライフスタイル」をコンセプトに、伝統・ファッション・芸術の3つを融合させ、糸づくりから染め・手織り・商品完成まで、京都丹後で「職人の手仕事」にこだわったモノづくりを展開。

代表者：楠 泰彦（代表取締役）  
創業年：昭和11年（1936年）  
事業内容：丹後織の紳士服飾雑貨等製造販売  
従業員数：13名  
住所：京都府与謝郡与謝野町字岩屋384-1  
電話番号：0772-42-4045  
HPアドレス：<https://www.kuska.jp/>



## 世界でも稀な手織りネクタイ



### ～素材に向き合い、手織りにより独特の“光沢”を生む～

Made in Japanのハイクラスネクタイ市場にターゲットを絞り、立体的な独特の織り柄でシルクが持つ美しい光沢を放つネクタイを開発。  
海に魅せられ、プロ級のサーファーである社長の思いから「丹後ブルー」の色味をもつネクタイをはじめ、カラーバリエーションも柄も豊富にラインアップ。国内外のAPレル等から高い評価を得ている。

## 「繊維の将来宣言」Pick Up!

### 自社の強みを生かした経営で価値を高める

- ・機械織り（大量生産）をやめ、職人による手織りに転換し、伝統・ファッション・芸術を融合させた「KUSKA」ブランドを立ち上げ。
- ・影響力の強いセレクトショップ等とのコラボ商品開発も手がけ、ブランド力を向上。

### 「メイドインジャパン」に満足するのではなく、独自の価値を世界に発信・提供する

- ・紳士服飾雑貨で権威のあるイタリアの展示会への出展に加え、英国王室御用達老舗紳士服飾店「HUNTSMAN(ハンツマン)」に独特な質感が評価され、手織りネクタイを展開中。

あらゆる分野で繊維の可能性を探究し、常に新しく付加価値の高いものづくりを実践することにより、技術革命を起こす

- ・“手織り”と“ジャカード織り”を融合させた独自の織機を開発。手織りでしか出せない凹凸のある特別な質感と生産性の向上を両立。

### 繊維産業が技術とクリエイティビティが融合する最先端の分野であることを広く発信する

- ・他の工芸産地（豊岡カバン、広島府中の靴）とのコラボにより、素材を活用した新商品を開発。

### 持続可能な繊維産業の在り方を模索し、社会課題の解決に貢献する

- ・自社製品の無料メンテナンスサービス、及び再生販売する新たな取組「Re:KUSKA」を開始。

## 今後に向けて

丹後地方は300年以上前から着物の生地が盛んに織られてきた日本最大のシルク織物産地で、織りの技術、クオリティの高い素材であふれています。  
その“地の利”に加え、自社にしか存在しない織機から作られる手織りの“独自製品”と“販路”を武器に、今後もネクタイ以外の分野にも挑戦していきたいと考えています。



【楠社長】



丹後ちりめん織元  
株式会社 **ワタマサ**



## 企業概要

製織だけでなく撚糸整経などの準備工程も自社工場で行うことにより、独自性の高いものづくりを実現。丹後織物求評会における数々の受賞の他、「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社（経済産業省中小企業庁）」にも認定されるなど、高い技術力が評価されている。

代表者：渡邊 正輝（代表取締役社長）  
創業年：大正7年（1918年）  
事業内容：丹後ちりめん、丹後織の製造販売  
従業員数：11名  
住所：京都府与謝郡与謝野町字岩屋961-3  
電話番号：0772-43-0032  
HPアドレス：  
<http://www.watamasa.jp/index.html>



## 洗える絹織物で和装の可能性を広げます！！



世代や性別を問わず多くの方に着物を着て頂くことを目指し、素材やデザインの独自性を追求しています。

**デザイン力を高めた新たな模様**を数多く生み出すとともに、“洗える”絹織物と**いった新素材の活用**にも取り組み、顧客層の拡大に注力しています。自社製品の着物や帯には、“ワタマサ”のネームを入れており、ブランド力の向上にも努めています。

## 「繊維の将来宣言」Pick Up!

### 自社の強みを生かした経営で価値を高める

#### ・一貫生産ができる充実の設備

充実した設備により、糸を仕入れてから織り上げるまでの工程のほとんどを自社内で完結できることから、丹後ちりめん（着尺・振袖・羽尺・帯・地袷・帯揚・衿）、丹後織（先染着尺・先染帯）という他品種の製品を一貫生産できる。

#### ・蓄積された着物柄

創業以来手がけてきた着物の模様（紋紙）を全てデータベース化。顧客からの様々なニーズに即応できる体制を確立。

あらゆる分野で繊維の可能性を探究し、常に新しく付加価値の高いものづくりを実践することにより、技術革命を起こす

#### ・素材の高機能化

絹にウォッシュ加工を施すことで水洗い可能とし、汗をかく時期の着物の管理も安心に。

## 今後に向けて

### “和装はまだやりきっていない。”

和装業界は日本でできる和装振興の取組をまだまだやりきっていないと考えています。着物は、一部のお金持ちだけが着るものではなく、老若男女問わずみんなが親しみを持って、着て楽しむことができるものです。私自身が「これは良い着物だ！」と思うものを世に送り出すとともに、着物を着る機会を増やし、多くの方々に着物の素晴らしさを知っていただきたいと考えています。



【渡邊社長】